# この子らと

令和6年5月号

## 命輝く子ども

### 「ありがとうの花束をあなたに

仏教の教えに『相依相関(そういそうかん)』(縁起)という教えがあります。人は,必ず,だれかとの関わりの中でしか生きていけないということです。だからこそ,それぞれの人が敬愛の心・感謝の心(リスペクト)をもって,関わりあっていくことで,世の中は,ずいぶんとやわらかな世の中になるように思います。

感謝の心を表す言葉に「ありがとう」があります。そのひとことで,周りを幸せにする不思議な魔法の言葉です。

自分の両手から次のあなたの両手へと次々と「ありがとう」の花束を手渡していけば,それが大きな輪になって,幸せの花をわたしたちに咲かしてくれます。

本園も,ありがとうの花束の輪をつくり,幸せの花をいっぱい咲かせたいと思います。

### ５月５日,「こどもの日」

こどもの日は,国民の祝日で,男女の区別なく,こどもの成長や健康を願う日です。一方**「端午の節句」**は,伝統的な年中行事で男の子の成長をお祝いする日です。

本県では,各家庭で灰汁に浸した餅米を竹皮で包み,灰汁水で数時間煮込んで作った「あくまき」が伝統的なおやつでした。

### “幼児の５月病もあります”

保育園に行きたがらない,やる気がない,いつもより癇癪を起す等大人と同じような様子を示すことがあります。話をじっくり聞いてやったり,スキンシップをたくさんとったり,適度に運動させたり,ゆったりと過ごさせたりするなど,５月病を解消してやってください。

### 日航機墜落で事故死した河口氏の遺書

羽田発大阪行きの日航ジャンボ機が群馬県御巣鷹山に墜落しました。520人が死亡。悲報は家族をどん底に突き落としました。

【遺書】(昭和６０年８月１２日１８時５６分)

**「マリコ,津慶,加代子,どうか仲良くがんばってママを助けてください。**

**パパは,本当に残念だ。きっと助かるまい。原因は,わからない。今,５分たった。もう,飛行機に乗りたくない。どうか,神様,助けてください。**

**昨日,みんなと食事をしたのが最後とは。何か機内で爆発したようだ。煙が出て,降下しだした。どこへどうなるのか。津慶,しっかり頼んだぞ。ママ,こんなことになるなんて残念だ。さようなら。子どもたちのことをよろしく頼む。今,６時半だ。飛行機が回りながら急速に降下中だ。「本当に,今まで幸せな人生だった。」感謝している。**

(三井船舶神戸支店長　河口博次　)

**河口さんが死ぬ間際まで書き続けた手帳(享年５３歳)**

死を覚悟し,切迫した中で,墜落時の心境や家族への思い等が書かれた遺書を先日,再拝読し,強烈な胸の痛みを感じました。そして,「覚悟の在り方・魂の強さ」を自分自身に問うことでした。「

**教育とは,流水に文字を書くようなはかないものだ。だが,それを岸壁に刻むような真剣さで取り組まなければいけない。」(教育学者森信三)**と言われます。かけがえのない子どもをお預かりしている私たちには,**「教育する者としての覚悟」**が必要なようです。